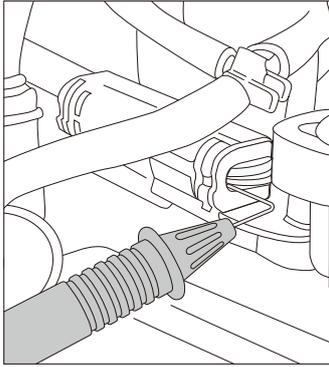
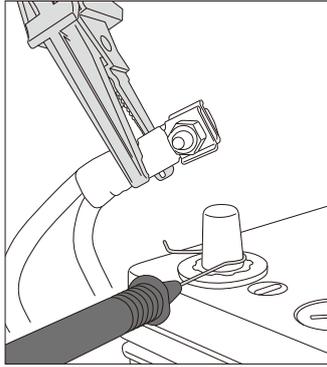


特長



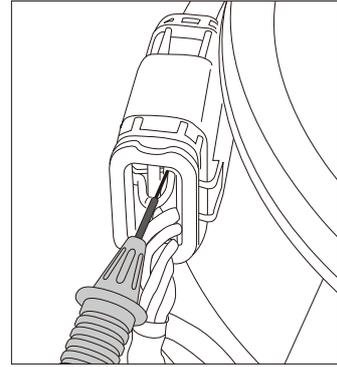
■ L型テストピン

狭く、ピンを接触させにくいテストポイントの測定に適しています。



■ 暗電流テストフック

バッテリーのマイナス端子に引っ掛けて、テストリードと端子の接触を固定できます。



■ ストレートテストピン

自動車のコネクタ端子など、深いテストポイントの測定に適しています。

使い方・仕様

100-40のテストプラグに766テスト棒を接続し、3種類のテストピン（標準、ストレート型、L型）、2種類の暗電流テストフックの中から、用途に合わせて適切なものを接続します。ワニグチクリップは、テストプラグに直接接続して使用します。

品名	テストピン	ストレートテストピン	L型テストピン	暗電流テストフック	
型式	767	792	769	790	791
ピンの長さ	19mm	25mm	15mm	68mm	74mm
ピンの口径	φ2mm	φ0.5mm	φ0.9mm	φ0.9mm	φ0.9mm
最大電圧	1000V	100V	1000V	100V	100V
最大電流	10A	1A	1A	1A	1A

1

2

テスト棒 (型式: 766)

- 最大電圧: 1000V
- 最大電流: 10A

ワニグチクリップ (型式: 942)

- 最大電圧: 1000V
- 最大電流: 20A
- 口径: 20mm

3

3

L型テストプラグ

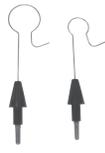
テストプラグ

テストリード (型式: 100-40)

- リード線の長さ: 1.6m
- 最大電圧: 1000V
- 最大電流: 10A

kaise 暗電流の測定方法

テストフックを使用した暗電流の測定方法



測定する前には、必ずエンジンキーをOFFにして、ドアランプ、ルームランプ、ヘッドライト等が消灯している事を確認します。

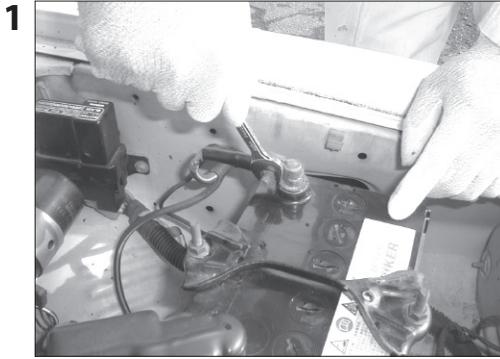


1. テストリードの組立とテスターの設定

- 1) テストフックには大と小があります。バッテリーのマイナス端子のサイズを確認して、大か小を選びます。小790、大791テストフック。
- 2) 小又は大のテストフックを、黒色テスト棒(766)の先端にネジで付けます。黒色テスト棒に黒色テストプラグを差し込みます。
- 3) 赤色ワニグチクリップ(942)に赤色テストプラグを差し込みます。
- 4) 黒色L型テストプラグをテスターのCOM端子に、赤色L型テストプラグをmA端子にそれぞれ一杯に差し込みます。
- 5) テスターのファンクションスイッチをmAの位置に合わせます。テスターのLCD上に、DC 00.00mAの表示が出ます。

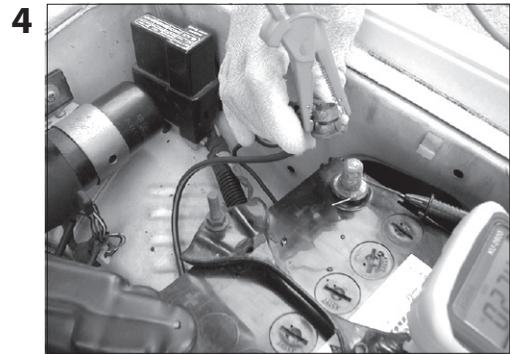
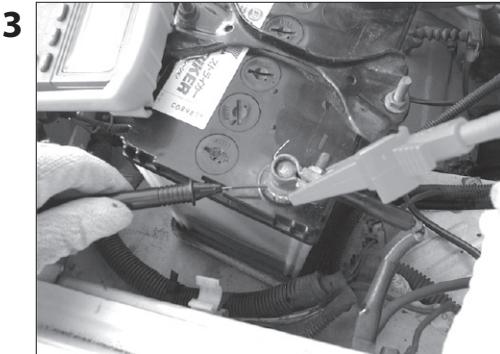
2. テストフックのセット方法

- 1) バッテリーの(-)ケーブルターミナルの止めナットを緩めます。
この時緩め過ぎると、バッテリー電源が切れ、バックアップメモリが消えてしまいますのでご注意ください。
- 2) バッテリーの(-)ケーブルターミナルを2~3ミリ引き上げます。
注意：バッテリーの(+)ケーブルには絶対に接続しないで下さい。
大電流が流れて火傷やテスターの焼損を起こす事があります。



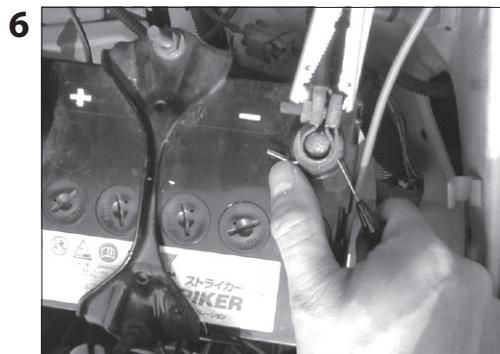
- 3) テストフックをバッテリー端子の隙間にセットします。赤色のワニグチクリップをバッテリーの(-)ケーブルターミナルに噛ませます。バッテリーの(-)ケーブルターミナルに噛ませる事が困難な場合は、エンジンブロックのフックか車体アースに噛ませて下さい。この場合、事前にアースに落ちているか調べて下さい。

- 4) 各端子が確実に接続している事を確認し、静かにバッテリーの(-)ケーブルターミナルを引き上げます。



- 6) 測定が終わったら、(-)ケーブルターミナルをバッテリーの(-)端子に静かに挿入し、テストフックを外します。テストフックを外す時は、親指でテストフックを広げながら押し外して下さい。写真参照。プローブのみで押し外すとフックが変形する可能性があります。

- 5) 電流値を読み取ります。基準値より多く流れている場合は、ドア、トランク、ルームランプ等が点灯していないか確認して下さい。



- 7) (-)ケーブルターミナルをバッテリー端子の根本まで押しつけて、ナットを確実に締めます。

警告：この状態で暗電流以外の測定は絶対にしないで下さい。ヒューズ切れ、テスターの焼損につながります。

注意：電流測定では、テスターの最大許容電流値を越えた測定をしないで下さい。テスターの電流 mAレンジは、最大200mAまたは400mAレンジですが、測定電流値が不明の場合は、一度10Aレンジでおおよその値を測る必要があります。許容値を越えた測定をすると、ヒューズが切れたり、テスターを焼損する事があります。

